

# 令和7年度病害虫発生予報第10号（2月予報）概要表

令和8年1月27日  
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 トマト（冬春栽培）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) 葉かび病		並
(3) 黄化葉巻病		並
(4) コナジラミ類		やや少
<u>2 きゅうり（冬春栽培）</u>		
(1) ベと病		並
(2) うどんこ病		並
(3) 灰色かび病		並
(4) アザミウマ類		並*
(5) コナジラミ類		並
<u>3 いちご（本ぼ）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		やや少
(4) ハダニ類		やや少
<u>4 茶の冬期防除対策</u>		
(1) チュウゴクアミガサハゴロモ		

## 表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

## 令和7年度病害虫発生予報第10号（2月予報）

令和8年1月27日  
埼玉県病害虫防除所

## 1 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○1月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（-）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
葉かび病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（-）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
黄化葉巻病	並	○1月中旬の発生量：並 □2月のコナジラミ類の予想発生量：やや少（-）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	やや少	○1月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は低い（-）	・本虫は黄化葉巻病を媒介するため、防除対策を実施する。

## 【共通注意事項】

- ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
- ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
- ・マルハナバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

## 表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並\***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・**多\*\*\***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

## 2 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（-）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
うどんこ病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（±）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・草勢低下は発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
灰色かび病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（-）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	並*	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い（-）	・本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い（-）	・本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・購入苗の場合は、到着時に病害虫の発生を十分確認する。</li> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> <li>・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。</li> </ul>			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

## 表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並\***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・**多\*\*\***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

## 3 いちご (本ぼ)

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（-）	・多湿により助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（±）	・草勢の衰えや過繁茂により発生が助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	やや少	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い（-）	・粘着板等によるモニタリングを行い、早期発見及び初期防除に努める。
ハダニ類	やや少	○1月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は低い（-）	・乾燥と気温上昇に伴い急増しやすいため、温湿度管理に注意する。
【共通注意事項】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> <li>ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。</li> <li>生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。</li> </ul>			

## 表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- 並\***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- 多\*\*\***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

#### 4 茶の冬期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
チュウゴクアミガサハゴロモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月9日に発表した「注意報第8号」(参照2)を参考に防除対策を実施する。</li> <li>11月13日に発表した防除情報(参照3)を参考に、産卵された枝の切除と適切な処分を行う。</li> <li>本虫のふ化は3月頃に始まる予測されるため、産卵された枝はそれまでに適切に対処する。</li> </ul>

参照2：令和7年度病害虫発生予察注意報第8号

「植木類・チャ・果樹類・宿根アスター等、チュウゴクアミガサハゴロモ」(令和7年10月9日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-8.html>

参照3：「チュウゴクアミガサハゴロモが多発しています！」(令和7年11月13日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20251113cha.html>

#### ＜農薬使用上の注意事項＞

- 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。  
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

#### 表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- 並\***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- 多\*\*\***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

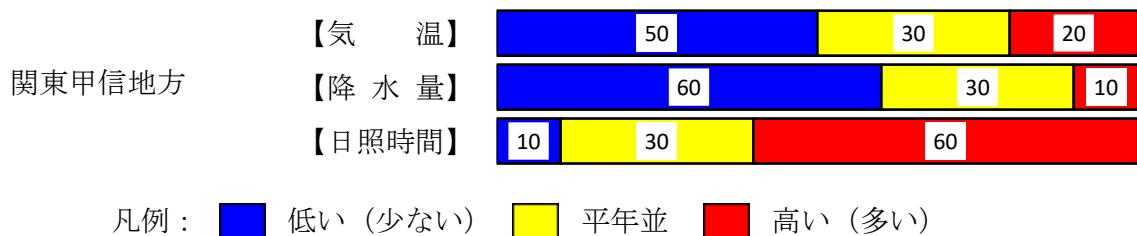
(参考) 気象概要 1か月予報 (令和8年1月22日発表)

出典: 気象庁ホームページ ([https://www.jma.go.jp/jp/longfest/103\\_00.html](https://www.jma.go.jp/jp/longfest/103_00.html))

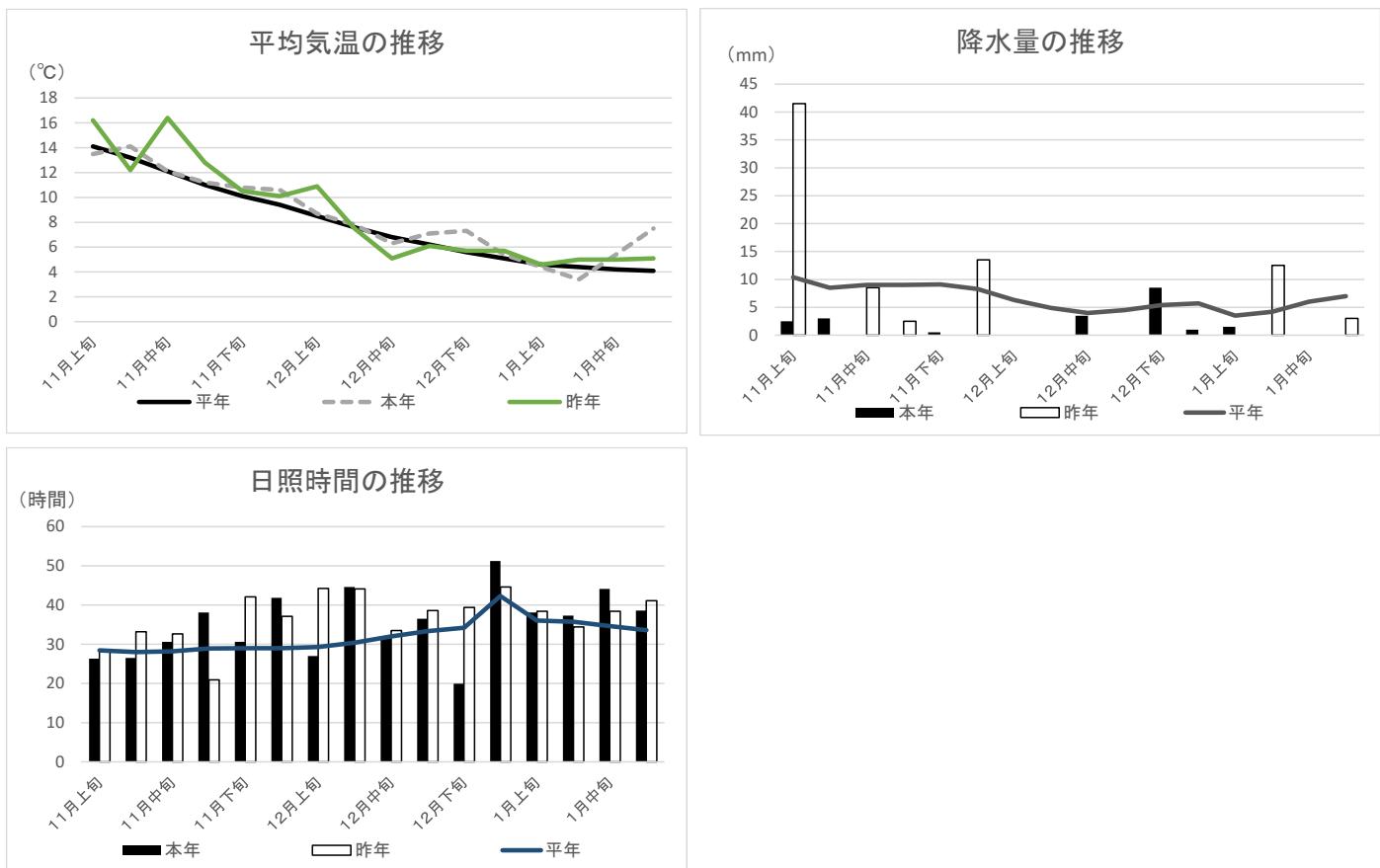
## &lt;予報のポイント&gt;

- ・寒気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の気温は、低いでしょう。
- ・低気圧の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

## &lt;向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)&gt;



(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間(熊谷)



問い合わせ先  
 埼玉県病害虫防除所  
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広784  
 電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663  
 E-mail: [k3603114@pref.saitama.lg.jp](mailto:k3603114@pref.saitama.lg.jp)  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>